(3)		第28	94号	(昭	3和30年 3 月28日第3	三種郵便物認可)		教	育
高知大学	おり、その立場から寄稿場から担任研究を行って育相談(教職課程)の立	るは、教	員(福末心里士)り径澰生なんでも相談室の相談生なんでも相談室の相談をした。	学生個別に対応する	うものである。一方、後ついて網羅的に説明を行ついて網羅的に説明を行うして調理的に説明を行うした。	る。前皆は、夏多旨尊をの役割を果たすものである。この2つの活動は、する学生相談を行ってい	を を で と 、 学 生 個 別 に 対 応 、 集 団 を 対 ら 学 生 、 集 団 を 対 象 に う 学 生 、 、 、 、 、 、 、 、 、 や ガ 、 、 や ガ 、 、 や ガ 、 、 や ガ 、 、 や ガ 、 、 や ガ 、 、 や ガ 、 、 、 、 、 、 、 や ガ 、 、 や ガ 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	こましたから。 の表記は、担任)として の表記は、担任)として	支爰するためこ、大学は学生の大学への適応を
杉田郁代	力を向上させるには有益意点を理解しておくこと	の標準的な対応方法と留	こ至らないこともある。 つをによっては問題解決 の、1回の相談で終結す	担任は相談を専門としなるからである。しかし、		は、学生が包える凶みこ 担任の行う学生相談 つを提示する。 のを提示する。	談、④定期面談□に分類 淡は①自発相談、③呼び出し面 シス相談、③呼び出し面 のチャンス相談、②チャ	目炎のとうて状をらまれていのであろうか。教育は、どのように行うのが	担任が行う学生相談
は、担任に「見捨てられおきたい。この時の対応の場で相談の約束をして	安を和らげるために、そものであれば、学生の不	きる限りその場で対応し	学主こ系急度を確認し、 学主こ系急度を確認し、 お応について確認してお 対応について確認してお			に対応すべき相談であ 来談することから、丁寧 決したいと担任を選んで	ろう。しかし、自発相談応できない事例もあるだできない事例もあるだでできない事例もあるだがす。	こ来炎ける自炎である。自発相談は、学生が悩	自発目談
てフィードバックする。	たい。、受容的に傾聴したい。	して良いことも忘れずにして良いことも忘れずに	さ、穿氷義務が守られるまた、話す内容についてすい雰囲気をつくろう。		クラス担任	ら、来談へのねぎらいないうものもある。そのよ	ているものの、何から話ったいるものの、何からに困っつには、何かしらに困っいような話が続く事例の記した。	炎(か) なひかけからなは、沈黙が続く事例や雑また、自発相談の中に	ある対応が重要である。た」と感じさせない誠意
このようなやり取りを通というメッセージは十分	を気にかけていますよ」することはできる。	ても、学生の不安を解消知時間のやり取りであっ	を行うりはどうどろう。を行うりはどうどろう。 うに、挨拶などの声掛け かわる機会は多くある。 内てに 学生と担任かれ			相談である。キャンパススの廊下などでの学生、終了後の教室、キャンパス	読である。例えば、授業 でもどこでも行われる相 でもどこでも行われる相 でもどこでも行われる相 でもどこでも行われる相 の日常生活の中で、いつ	チャノス目炎	まが気づってっなっ点こまた、質問を用いて、学
は、指導ではなく、課題由を明確に伝えることが	す時点から、呼び出す理がらである。よって、呼	いう反発心が想定される	る。のえこ、平び出されて、ゆうる必要力まる。たせいう意識を持つ者もいいう意識を持つ者もいいで、学生の中には、		による支援と学生相談	出す時点から、慎重に対難しい相談である。呼びが行う学生相談の中で、	でどれし 一世の タイミングや話す内 意を払いたい。 一世の の注 たい の については、 細心の注	ここから、芝生への声悸してながる。チャンス相談	できるという言順関系にじて、この先生なら安心
である。次に、学生が考って確認することも有効本質について、質問を使	生が気づいてない課題のど学生の考えを聞くこと	ように解決を行うのかなどう向き合うのか、どの	を与ハ、これから課題こその後は、課題の共有したい。		子生相談	の言葉をかけることによいることから、ねぎらいいることから、ねぎらい	で、学生を迎えたい。学ことをねぎらう言葉かけい。また、面談に応じたい。また、面談に応じた	きるような良心となるできるような良心となるで	いであることを云えてお解決を目的とした話し合
いて前傾姿勢で、学生のがく、学生の話を、ながら聞き	の「聞く姿勢」である。たい。1つは、非言語に	ニケーションに気を付け	の戸椎象を狙っことれて の戸椎象を狙ったー	そ行って終わりではな	るのはどうだろう。面談教えて」とひとこえかけすれーとして、「よかして」とひとこえかけ	って、きを、、。その後のって、きを、、。その後のつけた学生の行動を見守を行うことも良いだろ	知らない学内資源(リソ 持するとともに、学生の 計画について確認した 計画について確認した	う。ここでは具本の行動があるかについて決方法であるかについて	動こつハて、現実内な解える課題解決に向けた行
日常のコミュニケーショいってもいい。ゆえに、	のコミュニケーションが 星稚談は、学生との日常		さんしい。それに見ての言語でに、今月に見ての言語でに、今月に見ての言いであるという。そのでするとなると、最後まで傾聴してましい。	進路や個人的な悩みの相切にしてほしい。特に、	ら、学生の語る言葉を大学生の成長という視点かりまで聞いてほしい。	学生が舌す祭こさ、金中 で、学生は、「先生に話 ることができる。また、 もてもらった」と安心す	葉を、伝え返すによっだね」と学生の話した言である。言葉を繰り	「フィードミックする」である。学生の言葉を、	しハ。2つ目は、言語に
度〈2011.3〉	る教育相談のあり方につ 3 2011年 中島	年 (11) (12) (12) (13) (14) (15) (15) (15) (15) (15) (15) (15) (15	大学づくりを目指して「一学生の立場に立った」(現在の立場に立った「一学生の立場に立った」(報告)	平成22年3月	1 2008年『生徒 引用文献:	領関系こ重要な役割を果ーションは、学生との信ーションは、学生との信相談につながる。したが相談につながる。したが	ら気にかけてもらっていら気にかけてもらっていれずるなどである。これにより、学生は、担任かにより、ご生は、知らに連続がや声掛け、細めに連続がや声掛け、細めに連	えること、牧員則からりできることは、名前を覚	むものと定え、大切にし

夻